

2022年度 教育課程編成委員会
報告書

学校法人日産学園 専門学校
日産栃木自動車大学校

2022年度 第1回目 教育課程編成委員会 開催記録

1. 日時、場所

2022年9月21日(水) 10:00~12:20

日産栃木自動車大学校 特別教室

2. 参加委員

| | | |
|--------|-------|----------------------------------|
| 外部委員 | 青柳 洋平 | 栃木県自動車整備振興会 教育技術部 教育課 課長 |
| | 菅野 好一 | 栃木日産自動車販売(株) 営業本部 アフターセールスグループ課長 |
| | 友善 直樹 | 日産プリンス栃木販売(株) 営業本部 営業支援グループ課長 |
| | 椎名 真之 | (株) 茨日ホールディング 人財開発部 採用グループ 課長代理 |
| 内部委員 | 中村 光之 | 日産栃木自動車大学校 校長 |
| | 櫻井 廣行 | 同上 教頭 |
| | 高橋 真 | 同上 教育課長 |
| | 渡辺 禎 | 同上 教務課長 |
| オブザーバー | 本廣 好枝 | 日産・自動車大学校 学長 |
| | 玉生 久典 | 日産・自動車大学校 教育企画部 部長代理 |

3. 会議次第、議題

1) 校長挨拶

2) 委員紹介

3) 各課題について論議

(1) 2021年度 国家(登録)試験 受験結果報告と本年度の資格取得の取組

一級、二級国家試験結果の報告および、本年度の主要な取組について論議。

(2) 卒業生に関するアンケート結果報告 (21年4月 日産販社入社卒業生)

2021年4月日産販社入社の卒業生及び業務指導担当者を対象に実施したアンケート結果の報告と、アンケート結果からの取組について論議。

(3) 国際自動車整備科の運営状況

2年目を迎え、進学した学生へのアンケート結果報告と、今後の運営について論議。

(4) スポーツメカニクス科の取り組み

スポーツメカニクス科の現状と課題について論議と職業実践専門課程の申請に関する依頼。

(5) ICT活用授業の取り組み報告

4月より本格的に稼働しているICT活用授業の取り組み状況の報告と課題について論議。

4. 配布資料

上記各課題についてそれぞれ資料あり、資料1～5

以上

議事録

(1) 21年度 国家（登録）試験 受験結果（櫻井）

【一級】筆記は全員合格したものの、口述で7名不合格となった

筆記試験は全員合格。しかし、口述試験で7名と多くの不合格者が出た。受験者への聞き取りで不合格者は主に問診部分で得点ができなかつたとみられる。コロナによる事前の練習不足と、卒業後の練習時の異変の共有が不足していた。次年度は演習時間の確保と、演習内容の共有体制を整備する。

【二級】留学生1名がGD両方不合格となった（G,D別では、Gで7名、Dで1名不合格）

新型コロナウイルス感染の急拡大による在宅学習のため、学生の登校日が大幅に減少したため、学生の苦手分野の把握が十分にできなかつた。留学生は成績向上に時間がかかるので対策をしたい。

①論議

【一級】

菅野委員) 口述試験の勉強会は毎年2日間だけか？

櫻井) 2日間。多くて3日、大体2日間で行っている。

菅野委員) 2日間で十分できるようになるのか？

櫻井) 今まではできている。(JAMCA ができなかつたので) まっさらな状態からやると、ある程度以前に自分で練習してやるのでは、おそらく大違いだと思う。それが3日あったら、もしかしたら足りたかもしれない。

菅野委員) 3日間必要であれば、そこは言って頂ければ、協力する。結局ロープレ、場数なのかなって思うので。

友善委員) JAMCA の口述試験は例年何日実施しているのか？

櫻井) 1日です。

友善委員) ではトータルで、口述試験に対しては例年いつも3日間か？

櫻井) 卒業してからの勉強会は、2日間。在学中はJAMCA の試験に向けて1日。

渡辺) JAMCA の試験のために1日やるのと、それ以外に通常、学生同士の練習もやっているが、オンラインになって学校に来ていないので、そういう練習もできていなかった。

櫻井) 授業の中ではやる。問診はこういう順番で計画を作って訊く等。それを演習して身につくものだが、そこが抜けていた。

【二級】

菅野委員) 国家二級の留学生の前々年度は何人だったか？

高橋) 前々年度は22人。

菅野委員) 人数が増えたことと、日本語に対することが不合格の要因になってしまったのか？

高橋) そう思う。前々年度は人数が少なかったというのとコロナ対応もなかつたので、我々が把握できてピンポイントで学生に落とし込みができ。今回は人数が増えコロナで時間もなく、個々への落とし込みができないまま、留学生はただ問題を解いて覚えるしかない、仕方がないのでまずジーゼルの絞った。しかし、中身を説明するところまでは、ちょっと時間が足りずにいけなかつたため、パターンで覚える形になってしまった。

櫻井) 漢字がやはり、かなりハードルが高い。絵柄で覚えるイメージの留学生がいるのが実態。

櫻井) 今年度3月に受ける留学生は10名。そのまた次は42名。

②まとめ[今後以下を検討し、次回にその進捗を報告する]

- ・在学中に、口述試験を受けるための勉強、演習を行う
- ・口述試験勉強会担当教員の実施前の打ち合わせを実施する

・一級受験主担当は、口述試験勉強会の実務は行わず、進行を管理する

(2) 卒業生に関するアンケート結果報告 (21年4月 日産販社入社卒業生) (櫻井)

2021年4月日産販社入社卒業生及び業務指導担当者を対象に実施したので結果を報告。

業務指導担当者による評価

基本的な作業については概ね良い評価をいただいている。しかし、コンサルト操作を含む故障診断に関する項目の評価が低い。ダイヤルフォローは今回評価が良かった。

卒業生自身の声

概ね、指導担当者による評価と相対した結果が出ている。指導者と新人での齟齬は少ないと言える。

① 論議

青柳委員) アンケートでもっとコンサルトを学んできたかったとあるなら触らしてあげてほしい。修理書は電子か？

櫻井) そうしたい。修理書は電子になっている。

菅野委員) ダイヤルフォロー、電話対応は特に何か授業とかで取り入れたのか？

櫻井) お客さま対応のところではやるが、21年度だけすぐ時間をかけたわけではない。学生が違うと同じことをやっても、年度ごとに必ず差はできる。また、分母が少ないので、1人2人の違いで率に差がでる。

菅野委員) 今年度初めて新入社員の研修に携わったが、新入社員に「普段電話してるの？」と聞くとほぼしていない。特に受話器を取って電話をするっていうことをしていない。SNS、対面が主体で相手の顔が見える状態。販社は受話器を持って電話なので、相手の顔が見れない状態での話慣れておらず怖がっている。販社では否が応でも電話取らなくちゃいけないので、電話対応、電話の練習を急遽取り入れた。

櫻井) アンケート時は、入社後まだ1年経っていないので、ダイヤルフォローを行わせてもらっている人数がそもそも少ないと思う。させてみたらうまくできたのかもしれない。

菅野委員) 1回成功すると、うまく回っていく。

椎名委員) コンサルトですが、私共では新人に故障診断を求めている。実際販売会社でも故障探求させていないので、ここは低くなってしまふのは当たり前かなと思う。ここに時間を割くよりは他に割いてもらった方が良い。

この部品って何？みたいな新人もいるので、基本に時間を割いてもらった方がいい。個人的な意見も含めて、別に気にしなくてもいいと思う。

櫻井) 安心します。そう言って頂いて。

中村) 日産校として他販社からもコンサルトとかプロフィットよりも、もう少し基本的な作業ができるようになって欲しいという話は聞いているので、参考になりました。アンケート項目は変えていこうと思っている。

販社の皆さんにお聞きしたいが、実際に現場で当校卒業の新人を見られたときに、このアンケートの結果と実際の卒業生が繋がるのか、ギャップがあるのか、お聞きしたい。気になっているのは、だんだん栃木校の学生もレベルが下がってきているよね、という話をちょっと聞く。正直なところ教えて頂けると我々も少し改善方法が見えてくるのかなと思う。

椎名委員) 本当に御校だけではなく、昔に比べてだいぶ下がっているのは事実だが、全体的にそういうところはある。ただ、クルマ好きって人が減った、クルマをいじって入ってくるっていう人が少なくなった。御校は放課後に自分のクルマいじらせられるんですね？

櫻井) はい。主体性の取り組みでやっている。学校で学び、それを自分のクルマで実践する。まさしく主体性がある。

椎名委員) それが非常に重要だと思う。基本的なオイル交換、ベルトとか車検とかの整備で部品交換がきちっとできたら、もうかなり優秀。そんな感じで私は思っている。

中村) 友善さんどうですか？生の卒業生見て頂いて。

友善委員) 同じような意見なんです、レベルが下がっているっていうのは別に、仕事をするっていう姿勢が違う気がする。やりがいとかを持たせるためにはどうしたらいいのかなど。例えば、やったことに対してお金を給付すればやりがいになるのかというとそういうことでもない。難しい。

中村) 姿勢っていうか、仕事に対するスタンスが違う？やる気がない？

友善委員) やる気がない。

中村) 特に栃木の卒業生がやる気がないとか、そんなことはない？

友善委員) そうではない。今、現状で満足しちゃってる方が多い。欲がない。

菅野委員) 我々も新人研修でやっていること全てに意味があると言っていた。整備以外のところ、洗車とかも結構重要なことですから、全て意味があるんだと言ってたんですが、仕事を分けるというか、この仕事は重要でこの仕事は重要じゃないと分けてしまうのが見受けられる感じがする。自分がやっているその先には必ずお客さんがいるんだというところが伝わらない。

中村) このアンケートから思ったのは、先輩上司に相談できますかという項目で、ややできるまで含むと8割を超える。卒業生を非常に大事に対応頂いて、本当にお礼をお伝えしたいなと思っておりました。ありがとうございます。今後とも卒業生のこと、よろしく願いいたします。

②まとめ[今後以下を検討し、次回にその進捗を報告する]

- ・アンケート項目を実態に合ったものに改善する

(3) 国際自動車整備科の運営状況 (高橋)

国際自動車整備科も2期生を迎えた。2期生は23名。

1期生は自動車整備科の1年生と混成クラスで運営している。日本語の学習等を勘案した運営。

2期生に昨年度1年間のアンケートを実施。概ね国際科の内容に満足している様子である。

外部への見学や、リクエスト授業など、昨年度好評だった内容を踏襲しつつ新たな研修先も開拓している。

①論議

椎名委員) 留学生を去年採用した。勤務地の自由度が高いし、とにかく一生懸命。死に物狂いで来ているから、応援してあげたいなと思っている。仕事は覚えてきたんですけど、日常会話は弱い。引き続き留学生の採用をやっていくが、面接は日本語ができるかどうかだけ。日本語を覚えてもらえれば、本当にあとはいいなと感じる。

櫻井) 在学生でも、留学生の方が一生懸命死に物狂いでやります。

椎名委員) 意識が違いますよね。後がなく来てますから。

高橋) 日本語会話を販社が求めているのは承知しているので、朝礼で3分間スピーチなど、日本語で言う等、色々取り入れながら日本語力向上ということでやっているが、なかなか会話が上がらず、私共も手を焼いている。

椎名委員) その点からも3年課程はいい。

高橋) 国際科独立の3年間にしなかったのは、後半2年を日本人と一緒にして、会話を上げようという狙いがある。国家試験の勉強がやりにくい等ネガティブな面もあるが、日本語力を上げるには日本人と日本語で話すという機会を増やすのがよいと感じている。

中村) 留学生ですが費用が無くて、運転免許が取れない。運転免許を取って入社っていうのは必須条件、採用条件から外れないでしょうか。また、取らせるのに販社さんの方から、例えば内定決まったら免許所得の何らかの支援を頂けるとか、お金を貸して頂けるとか、そういうことはどうでしょうか。勝手なお話ですが。

菅野委員) 引き取り、納車はまだよいが、構内の運転が必要。免許がないと洗車など、構内移動時に運転させる人を別に用意しなければいけない。その工数が、今の段階だとちょっと確保できない。

友善委員) 正直なところ、免許は取ってきてほしい。入社後に取ったとしても、元々持つ人と新しく取った人では教える範囲も違ってくると思う。

椎名委員) 4月に入った4名の留学生のうち、2人は会社に入ってから取った。それまでは自転車でいける範囲にアパートを探した。5月にもう、すぐ免許取った。融通は効かせたいなと思っている。

②まとめ[今後以下を検討し、次回にその進捗を報告する]

- ・リクエスト授業の実施報告。
- ・陸運支局の見学（新規）を登録制度の授業を実施したあとに実施する。
- ・産学連携授業として曙ブレーキの出張授業を実施する。

(4) スポーツメカニクス科の取り組み（高橋）

・スポーツメカニクス科の現状と課題

スポーツメカニクス科の入学希望者数が伸び悩んでいる。定員は15名だが、次年度6名、次々年度5名。

要因として、レース活動に魅力を感じる学生の減少、保護者に対する訴求力の弱さがある。

今後の対策として、レース活動を縮小して「ものづくり」系の活動を増やす（ドライバーにならない選択肢を作る）。

また、1, 2年生とSPM3年の交流を図り、転科を促進していく。

ドライバー以外の活動としては、軽板金、外部レースメンテナンス会社との連携など。

・職業実践専門課程申請に関するご相談

スポーツメカニクス科について、職業実践専門課程の申請を行う。

申請をするために、協力弊社様と協定書を交わして産学連携授業内容を構築して実施することが必要（FY22-23）

FY23 卒業生を送り出すことで申請が可能となる。

上記について、協定書の締結と授業内容構築のご協力をお願いしたい。

①論議

青柳委員) 余分に1年来るには相当余裕がないと。ドライバーから外れたら何か走行会みたいのは体験できるのか？

高橋) レースに関してはメカ担当という形で行くのと、それでも行きたくない学生には、ラッピング等、別メニューになる。

青柳委員) 撮影とかは学生にやらせてないですか？ビデオや写真。

高橋) そういう広報的な役割もありそう。そういう視点はなかったので取り入れを検討する。

中村) 板金とか塗装など、資格は取れないが学生に技量を身につけてもらいたいなと考えている。最近、クルマの事故が先進技術で減ってきてるが、その中でやらせるのもっていう感もあるが、どうでしょう。

青柳委員) まあ必要ですね。卒業してカスタムなど、ドレスアップ関係にも行けるから。

椎名委員) 当社で、スーパー耐久に参戦しているチームにメカニックチャレンジと同じようなことを自社版でやっているが、ピットクルーの仕事がしたいとか、そんな方もこのスポーツメカニクス科にいるのか？

高橋) 学生でそこを希望するのは少ない。過去にレーシングチームの方に頼んで、手伝いとして帯同をお願いしたことがあるが、本当にレーシングチームとして入って行くと、仕事の辛さで嫌になってしまったということがあった。

椎名委員) そうですか。採用強化と離職防止を兼ねてその取り組みをしている。今年の4月は日産校出身の方が3名、その他1名で構成した。一級整備士を取った方をそこに入れたんですけど、2週間ほど抜けるので店舗の損失

が大きい。そのため、今度の4月からは、スポーツメカニクス科卒業生など、経験してる新人にやらせようかっていう話が出ている。好きな人がいれば期待できるな、入ってきて頂けるんだったら、非常にありがたいなと思っている。先日のもてぎスーパー耐久に茨城の専門学生30人近く連れていった。アンケートに答えた20人くらいのうち、半分以上はピットクルーの仕事をやってみたいとの回答だった。ただその中の半分が、できるか不安だとはなっている。興味がある人がいれば紹介してほしい。

櫻井) その活動のポスターに載ってたのは当校スポーツメカニクス科の卒業生か？

椎名委員) そうだ。

②まとめ[今後以下を検討し、次回にその進捗を報告する]

- ・軽板金授業を導入して、レース活動以外の選択肢を構築する。
- ・S耐でメンテナンスを担当している工場との共同授業を構築する。
- ・卒業前3か月は学生が自分で設定したテーマについて取り組み、報告する。

(5) ICT活用授業の取り組み(渡辺)

4月より1・3年生に個人持ちのChromebook端末を購入してもらっている。授業資料の配布や、電子資料を用いた授業の実施、履修試験の実施などに活用している。

今後も学生の理解度向上の施策として活用法の検討、授業計画への落とし込みをしていく。

一方、課題として、教員側のスキルにより活用度にばらつきがあるため、活用研修等を実施していく必要がある。

①論議

友善委員)すごいと感じた。学生がパソコンに触れるのは、会社に入ってから必要なキーボード入力に効果がありそう。

渡辺) 実はそれを狙ってタブレットではなくキーボード付きクロームブックにした。できればレポートとかは学生に自分で打って出させるというようなことはさせていきたい。何かしらにつけキーボードを打たせるような仕組みにしたいと思う。既に3年生は実際にキーボードで打っている。1, 2年生もそうしたい。

青柳委員) 授業の内容が残るから、それでもう安心してお守りにしちゃうみたいなことはないか。自分でまた紙に書くことはさせているか？

渡辺) 紙に書くことをさせている、させていないかで言うと、こちら側で選んでいるところがある。例えば、履修試験のように合格・不合格が決まればいい、という試験であれば紙はいらない。しかし国家試験の勉強のように、終わった後に自分で再度勉強する、という使い方には紙が必要。つまり、こちら側で使い分けをしてあげないといけないのかなと感じている。

この数年、コロナの影響でギガスクール構想がすごく進んだ。もう小・中学校はほぼ導入という状態。高校も、もうこの4月からほとんど導入されている。これからは電子の世界で勉強した学生が来る。この層に紙で学習しろと言っても合わない場合がでてくる。そのときに我々はその選択肢を潰さないようにしたいと思っている。もちろん、紙で勉強したい学生は紙で勉強するし、電子で出来る学生は画面の中で勉強してもらおうという、ツールとしてこちらはどちらも提供できる体制を作るという考え。

中村) ブラインドタッチできる子もクラスにぽつぽついる。

渡辺) 3年生の授業で、ノート取らずに入力する学生もいる。2年生にもいるので、そういう選択肢は、こちらが押し付けるのではなく、両方用意してあって、自分に合う方を使う、というような選択のしかたも必要なのかなと思っている。ただ、それが判断できない学生もいる。そういった勉強の仕方が良くわからない学生には我々が手をかけていく、というような分け方ができると非常によい。

②まとめ[今後以下を検討し、次回にその進捗を報告する]

- ・教員のスキル差による活用のばらつきを減少するための研修を実施する。
- ・キーボード入力練習を促すような課題の設定を行う。

—以上—

2022年度 第2回目 教育課程編成委員会 開催記録

1. 日時、場所

2023年2月16日（木）14：00～16：30

日産栃木自動車大学校 特別教室

2. 参加委員

外部委員 菅野 好一 栃木日産自動車販売（株）営業本部 アフターセールスグループ課長
友善 直樹 日産プリンス栃木販売（株）営業本部 営業支援グループ課長
椎名 真之 （株）茨日ホールディング 人財開発部 採用グループ 課長代理

※欠席 青柳 洋平（栃木県自動車整備振興会 教育技術部 教育課課長）事前に書面で意見受領

内部委員 中村 光之 日産栃木自動車大学校 校長
櫻井 廣行 同上 教頭
高橋 真 同上 教育課長
渡辺 禎 同上 教務課長
川上 宏美 同上 学務部長

オブザーバー 玉生 久典 日産・自動車大学校 教育企画部 部長代理（オンライン参加）

3. 会議次第、議題

1) 校長挨拶

2) 各課題について論議

(1) 22年度 日産資格試験の結果、及び、国家（登録）試験 受験進捗

日産資格試験の受験結果報告と国家試験受験対策の進捗について論議。

(2) 日産販売会社 産学連携授業（栃日、P 栃、茨日3社のTSによる授業）

今年度実施の産学連携授業の実施報告と、アンケート結果について論議。

(3) 日産販売会社見学研修（1年整備課が栃日、P 栃、茨日3社を見学）

2年目を迎え、進学した学生へのアンケート結果報告と、今後の運営について論議。

(4) FY23 授業改善の取り組み

次年度に行う授業設定時間・内容の改善取り組みについて議論。

(5) スポーツメカニクス科 授業改善の取り組み

2024年度に実施する3年課程から1年課程への変更理由についての説明。

一般企業でのインターンシップの実施とコラボ授業の取り組みについて論議。

(6) ICT活用授業の取り組み

2級国家試験特訓への活用事例と、授業活用好事例について紹介、論議。

(7) FY22 # 1回教育課程編成委員会の課題進捗
第1回委員会における課題の進捗報告。

4. 配布資料

上記各課題についてそれぞれ資料あり、資料1～7

以上

議事録

(1) 22年度 日産資格試験の結果、及び、国家（登録）試験 受験進捗（櫻井）

【日産資格 TS2 級・3 級,TA3 級】 追再試合め、全員合格

【二級進捗】 現在 70 点台が中心。点数の低いところに留学生が多い。

教科書で調べられない学生（留学生）には、問題の適不適の見極め方を中心に解説。

集中力持続が困難な学生には、短サイクルで模擬試験、解説、見直しや、個別指導を実施。

【一級進捗】 直近の試験は、約半数は 80 点以上

低位学生の成績が上がらない。中位学生にも理解不足者がいる。

Q&A・意見

青柳委員) 留学生のフォローが重要（事前資料を渡辺代読。以降同じ）

菅野委員) TS3 級 試験は留学生も受験するのか。その準備期間はどれくらいか。

高橋) 日産社内定者が多く、留学生も受験している。学習期間は 3 週間、4 週間。留学生はさらに手厚くなる。ただ、留学生の理解度は低い。

友善委員) 留学生は、教科書を見ても理解が難しいものを、問題を上手く理解させられるのか。

櫻井) 日本人と違い、個別に理解させていく必要がある。

高橋) 問題文をみて、○×のポイントがわかるように解説している。

椎名委員) 現場の TS も仕事の覚えが悪いという話を聞き、教育の難しさを感じる。いいやり方を共有させてほしい。

高橋) 試験結果の分析ツールが進み、分野の中の何が理解できていないかがわかるようになってきた。

渡辺) こうしたツールで本人の納得感が持てるようになるとやる気が出る学生が多い。仕事も同様かと考える。

櫻井) わかっていること、分からない事の仕訳をしてからフォローをする対応が必要。成績がよくない学生は、自分での仕分けもできない。

中村) 近年、集中力がない、長続きしない、特定の事に集中する、等の学生も見受けられる。その対応について、教員もその専門の研修を受けて改善を図ろうとしている。来期 4 月に研修を予定している。

高橋) 本人のやる気という軸をこれまで持ってきたが、それだけではうまくいかない現状があり、こうした研修が必要

渡辺) やる気スイッチを自分で入れられない学生への対応が課題。

(2) 日産販売会社 産学連携授業（栃日、P 栃、茨日 3 社の TS による授業）（櫻井）

①自動車整備科 1 年のアンケート結果

85~100%で有意義と感じている。95%が濃淡はあるが販社 TS に良い印象を強めた。

②一級自動車工学科のアンケート結果

100%有意義と感じている。100%が濃淡はあるが販社 TS に良い印象を強めた。

※22 年度の日産販社就職希望は、この授業直後は 64.8%で前年同時期の 53.2%より向上。

しかし、最終は 59.8%となっている。

(3) 日産販売会社見学研修（1 年整備課が栃日、P 栃、茨日 3 社を見学）（櫻井）

アンケート結果 94%が有意義と感じた。96%が就職活動に役立ったと感じた。

Q&A・意見

- 椎名委員) 夏休み中で3名欠席、その後、また年間で何回やるかが予めわかれば、それ毎に何をやるか考えられる。
- 友善委員) 見学会が何回もあるとその都度違う資料を用意することが難しい、見学会の内容が重ならないようにしたいので、予め年間の計画があると助かる。また、1年生の授業も、どう進めていけばいいのか、戸惑う事あり、進め方のアドバイスがあれば有り難い。
- 菅野委員) 整備科では、内容にもよるが、相手が多く、こちらの人数が足りなかったか。出張授業は、出した若手TSもアピールのチャンスだととらえており、良い事だと認識しており、次回は増員も考えたい。
- 青柳委員) 有意義と思わない学生にとっても、今後役立つ内容と考えるので継続してほしい。
- 櫻井) 一級は少人数なので授業に集中できるが、整備科は人数が多いことが課題だと考える。手法を検討したい。また、TSの方による授業は継続するという理解でよろしいでしょうか。
- 中村) 今の学生は元々、少人数で育ってきており、大人数になると半分くらいは伝わっていない様子。少人数でやるというのがポイントか。
- 日産販売との接点を何はともあれ増やすということで動いたが、大人数で反応も鈍く計画性も無く反省。次年度どうやるか、具体化はこれからだが、少人数をベースに、順序だてたテーマに沿ってストーリー性をもってやっていくような事を考えたい。今後、弊社のご意見を頂きながら、実行に繋げたい。

(4) FY23 実習授業改善の取り組み (高橋)

① 授業設定時間数の改善

- ・法定時間近くまで削減し、補講やクラブなどの活動時間を増やす
- ・各実習の時数を揃え(8時限の倍数) 互換性を高め、ストーリー性や一貫性を持たせる。

Q&A・意見

- 青柳委員) 時数の削減の中で、放課後の補習が必要なのに分かったふりや理由を付けて帰る学生が出ないようにできるのなら良い取り組みと思う。
- 菅野委員) 22年3月卒業生と話をして意見を聞いてきた
- 法定点検は一級はやらない為、ほぼ忘れて就職。1, 2年目の仕事はそれが中心であり、学校での時期を見直してほしい。
- 各点検項目は、どこを見ればいいのかと一歩踏み込んだものが実践的。プレーキや補器ベルト、タイロッド交換などで、交換及び調整作業も難しい部分があり、もっと授業に取り入れてほしい。ESMは知っているが、部品の交換時の使い方を学んでいない。
- 櫻井) この卒業生の年から、従来、主に行っていた法定点検は学生がだれるのでその取組を少なくし、重量物脱着を増やした。その弊害と思われる。
- 渡辺) 従来、定期点検ばかりやらせていたが、だれてくる。1班複数人でやるにも限界があって、変えてきた。
- 櫻井) タイロッド脱着のような作業は、従来よりやっているののでできるのではと思うが、定期点検の習熟も含め授業内容を検討する。
- 渡辺) 卒業前に定期点検を行うなど、時期を調整するのも有効ではないか。
- 友善委員) 時限数削減により、よく理解せず試験が受からないということになることが懸念される。
- 渡辺) 法定時間は全員同じ授業内容としなければいけない。それ以外の時間を作ったのは、理解が低い学生の補習を行ったり、上位者が満足する内容の取組を行ったりすること。ただ、補講が増えて、その時間がつぶれては意味がない。その為には休ませない工夫も考え実行するが、やってみないとわからないところもある。
- 櫻井) 最初の年はご意見通りの問題が起き大変だと思う、これは数年かけて、目的を達するつもりで行う。

椎名委員) 新しい時間割を見ると、余裕があって、入学希望の高校生からは良く見えるのではないか。

(5) SPM 科 授業改善の取り組み (高橋)

①24/4 入学から3年→1年課程への変更 (3年目の授業内容の改定を臨機応変に行えるようにする)

※SPM科は職業実践専門課程の申請は止める。

②授業内容の改善

一般企業(板金、塗装、溶接)へのインターンシップ。ゼロワンとのコラボ受業(S耐バックアップ作業)

Q&A・意見

菅野委員) SPMの学生の就職先はどこになるのか? BPに行く学生さんもいるのか。

高橋) 整備科の学生と変わらない。BPも今迄、授業で少しやるが、就職先にする学生はいない。

菅野委員) 当社のBPも人が不足しており、期待感もあった。

櫻井) 各販社と連携の協定書を結ばせて頂いたものは、整備科、工学科の職業実践専門課程の継続申請で使用させていただきますので、無駄になるものではありません。

椎名委員) SPMに行く学生さんは何人くらいか。

高橋) 今年6名、その程度の員数。

中村) 10名程度に増えてほしい。栃木校にとってSPMが、エポックになって、学生募集に活かせるようにしたい。

(6) ICT 活用授業の取り組み (渡辺)

①国家試験特訓での活用 ~ 各種得点の分布を自動で作成。細かな単位で個々人の弱点が見えるようになり、ピンポイントでの指導がしやすくなる。さらに弱点の問題をオンラインで反復練習できよう準備した。このツールの対象は中位の学生で、このランクの学生を早期底上げし、下位学生に先生の工数を振り分けられるようにしたい。

※京都、愛媛、3校で共用し、拡張している。

②授業での活用事例 ~ 工学計算問題にて、授業内で説明し、練習問題を配布。次の時間で確認問題を実施すると共に個々人の結果が見える化。問題はオンラインでできるようにし、学生は不得意な問題を好きな時間に反復練習できるようにした。わからない時はその問題の授業での解説をオンラインで確認できるようにした。これが学生の自主学习に功を奏し、試験結果にも反映された。

Q&A・意見

青柳委員) 先生も学生も効率的でよい。

椎名委員) 効率的でいい。この仕組みをいただきたいが、外部に出せないのであれば、同様の工夫をしたい。

友善委員) 販社の実績管理にも使えるといい。

渡辺) Googleで情報が一元化されている事でこれが成立している。

菅野委員) 留学生に活路が開けたのは良かった。大いに参考になった。

櫻井) 自分で勉強できるというところが大きい。

(7) FY22 # 1回教育課程編成委員会の課題進捗 (櫻井、高橋、渡辺)

①FY21 国家一級口述試験の不合格者7名の対策

→今期は2月に在学中の口述試験の勉強、演習を実施した。

今後は担当教員の口述試験勉強会の事前打ち合わせの実施。勉強会では主担当教員は全体進行を管理。

②卒業生アンケート項目を実態に合ったものにすべく検討

→日産 5 校で検討の結果、現在の項目での継続を決定

③FY22 国際自動車整備科で下記を計画

- ・リクエスト受業を実施（3 種）
- ・支局見学を実施
- ・産学連携授業は、日程的に難しくなり未実施。

④ICT 活用授業の取り組み

- ・教員スキル差を少なくするため、新任教員 3 名を含めて 3 月に研修を実施予定。
- ・学生のキーボード入力練習を促す課題設定を各学年で実施

4、最後に（中村校長）

卒業生の当校授業の内容についての意見など、大いに参考になる意見をありがとうございます。

ICT については、渡辺が全校のリーダーをやっているので、栃木校発信で進めている。

今後とも、当校との連携を宜しく願いたい。

—以上—